

恵泉教会木曜祈祷会

リジョイス6月25日 通読：列王記下2章

1. 列王記下2章の背景と文脈

この章は、イスラエルの霊的暗黒時代に神の言葉を語り続けたエリヤの地上での歩みが終わり、その使命がエリシャへと正式に継承されるプロセスを描いています。

- **最後まで離れないエリシャ (1～8節)**：主が竜巻に乗せてエリヤを天に上げようとしたとき、エリヤは弟子のエリシャをギルガル、ベテル、エリコに留まらせようとします。しかしエリシャは「主は生きておられます。あなたも生きておられます。わたしは決してあなたを離れません」(2節など)と三度固く誓い、最後まで付き従います。二人がヨルダン川の水をエリヤの「外套」で打つと水が分かれ、彼らは乾いた土の上を渡りました。
- **霊の二つの分と火の戦車 (9～14節)**：渡り終わると、エリシャはエリヤに「あなたの霊の二つの分をわたしに受け継がせてください」と願います。二人が歩いていると「火の戦車と火の馬」が現れて二人を引き離し、エリヤは竜巻に乗って天へ上りました。エリシャは落ちてきたエリヤの外套を拾い上げ、「エリヤの神、主はどこにおられますか」と叫んで自らヨルダン川の水を打つと、水は再び分かれ、彼が真の後継者となったことが証明されました。
- **エリシャを通した命と裁きの奇跡 (15～25節)**：エリコに滞在したエリシャは、塩を使って町の悪い水を清め、死と流産の地を「命の地」へと回復させます(癒やし)の奇跡)。一方で、偶像礼拝の中心地であったベテルに向かう途中、「はげ頭、上って行け」と彼を嘲笑した小さな子供たち(若者たち)を主の名によって呪うと、森から二頭の熊が現れて彼らを裂きました(裁きの奇跡)。神の預言者の言葉が持つ、癒やしと裁きの両面が示されています。

2. 列王記下2章の中心主題

この章には、「霊的な飢え渴きと執着」、「長子の権利(二つの分)の継承」、そして「自ら水を打つ信仰の決断」という主題が含まれています。

- **途中で満足しない霊的な飢え渴き**：預言者の仲間たちはエリコから「遠く離れて」(7節)二人の様子を見つめているだけでしたが、エリシャはエリヤに徹底的にしがみつきました。神の深い恵みや霊的な力は、遠くから眺めている傍観者ではなく、「決してあなたを離れません」と食い下がる、霊的に飢え渴いた者にこそ与えられます。
- **「霊の二つの分」を求める祈り**：エリシャの願いは「エリヤの二倍の能力が欲しい」という傲慢なものではありません。「二つの分」とは、当時の法律で「長子(跡取り)」に与えられる相続分のことです(申21:17)。つまり、「あなたの使命と重い責任を、後継者としてすべて私に背負わせてください」という、神の働きに対する命がけの献身と責任感の表れでした。
- **「エリヤの神」から「私の神」へ**：エリヤが天に上げられた後、エリシャはただ空を見上げて泣いているわけにはいきませんでした。彼は落ちてきた外套(資格・使命)を自らの手で拾い上げ、自分自身で「エリヤの神、主はどこにおられますか」と問い、水を打たなければなりません。先人たちの信仰の遺産を受け継ぎ、今度は「自分の信仰」として目の前の困難(ヨルダン川)に立ち向かうことが求められたのです。

3. 黙想と適用のための質問

- ① あなたは「決して離れません」という霊的な飢え渴きを持っていますか？ エリヤは何度もエリシャを留まらせようとしたのですが、エリシャは決して離れようとしませんでした。（日々の忙しさやちょっとした困難の前で、神様を追い求めることをすぐに諦めていませんか。遠くから傍観する「預言者の仲間」で終わるのではなく、主の御衣の裾を力強く握りしめるような、霊的な飢え渴きと執着を持っていますか。）
- ② 「霊の二つの分」を求めて祈る覚悟がありますか？ エリシャは、この世の富や地位ではなく、神の働きを引き継ぐための「霊の二つの分（長子の責任と聖霊の力）」を求めました。（今、あなたが神様に一番求めているものは何ですか。自分の願望を満たすものでしょうか、それとも、神様から託された使命（家庭、職場、教会での役割）を全うするための豊かな聖霊のお働きでしょうか。）
- ③ 自らの手で「外套」を取り、水を打っていますか？ 偉大な指導者エリヤが去った後、エリシャは拾い上げた外套で自ら水を打ち、新しい時代を切り開きました。（いつまでも過去の素晴らしい霊的指導者や、親の信仰、過去の恵みの体験だけに頼っていませんか。今日、神様が「あなた」に託された外套（使命と賜物）を拾い上げ、目の前に立ちはだかるヨルダン川（困難）に向かって、自らの信仰をもって水を打つ決断をしましょう。）

4. 祈り

生けるまことの神様、

列王記下2章を通して、エリヤからエリシャへと信仰の遺産が力強く引き継がれていく姿を見せてくださり、感謝いたします。

主よ、私は時として、日々の忙しさや妥協に流され、途中で立ち止まり、遠くから傍観するだけの者になってしまうことがあります。どうかエリシャのように、「主は生きておられます。わたしは決してあなたを離れません」と、あなたに徹底的に従い抜く霊的な飢え渴きと情熱を与えてください。

この世の富や安定ではなく、あなたが私に託された使命を全うするための「霊の二つの分」を、豊かな聖霊の満たしを、今日私に与えてください。先人たちの信仰の遺産にいつまでも甘えるのではなく、あなたが残してくださった恵みの外套を自らの手で握り締め、目の前のヨルダン川に向かって信仰の一步を踏み出す勇気をお与えください。

私たちに聖霊を注ぎ、ご自身の働きへと力強く押し出してくださる救い主、イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。